校長室だより～燦燦～ №７６６

仁和寺にある法師

2023.6.7

４月に２泊３日の修学旅行に行った。目的地は関西方面、京都、奈良、大阪である。奈良公園に行った。奈良公園には何度か行ったことがある。正確には、東大寺に何度か行ったことがある。奈良の大仏を見るためである。

今回は、春日大社から見学が始まった。そういえば、ゆっくり見たことがなかった。その後、二月堂に移動した。お水取りで有名である。今まで来たことがなかった。近くには、三月堂と四月堂もあった。いつも東大寺の大仏様ばかりに意識がいき、３つのお堂の存在を忘れていた。二月堂からの眺めがよかった。

こんなにいいところがあったのか。これでは「仁和寺にある法師」だなと思わずにはいられなかった。「仁和寺にある法師」とは、「徒然草」のお話で、中学校国語の教科書に古典教材として載っている。

仁和寺の僧が、石清水八幡宮に行ったことがないことを残念に思い、あるとき、思い立って一人で参詣した。麓の極楽寺や高良を拝んで帰った。帰り着いた僧は「石清水にやっと行くことができた。すばかしかった。それにしても、みんな山へ登っていったのはなぜなのだろう」石清水八幡宮の本殿は、山の上にあるのに、その麓の寺社だけを見て「これが石清水八幡宮だ」と勘違いして帰ってしまったのである。そこで、兼好法師は「ちょっとしたことでも、案内役は欲しいものだ」となる。

奈良公園のメインは、東大寺の大仏であることには変わりはない。だが、二月堂からの眺望、興福寺の阿修羅像などもサブメインである。仁和寺の僧とは、少し違うが、似たようなものである。今回はプロの案内役がいて助かった。解説を聞きながらだったので、じっくり味わうことができた。

古典教材の「徒然草」や「枕草子」には、おもしろいエピソードが数多くある。人間のやること、考えることは、昔も今も、さほど変わらない。読んでいると、ためになることが多い。古典のおもしろさの一つである。

何事も知っているということは大切である。知らないと、損をすることもある。思い返すと、仁和寺にある法師にとっての石清水八幡宮のようなことが、今まで多かったように思えてくる。昔からそうなのだが、ガイドブックなどで行く前に予習すればいいものを、帰ってきてから復習していることが多い。ここに行った、ここにも行ったと確認をするのだが、「ここも行けばよかった」となることが多い。知らないばっかりに、その価値がわからないことがよくある。残念なタイプである。これからは、仁和寺にある法師にならないようにしていきたい。